

患者番号		記載日	
患者氏名		診療科	
生年月日		性別 男・女	記載者名

検査項目：造影MRI 胸部
 腹部
 骨盤
 その他（ ）

MRI造影剤とは

MRI検査のために体の中に投与するお薬で、通常、肘の静脈から投与します。MRI造影剤を用いることにより、あなたの病気の診断や状態をより明らかにし、今後の治療に役立てられることが期待されます。

MRI造影剤の副作用

MRI造影剤で1-2%くらいの方に何らかの副作用が認められますが、多くは吐き気・嘔吐・かゆみ・発疹などの軽度のもので、まれに呼吸困難やショックといった重い副作用を生じることもあります。このような副作用で入院が必要になったり、後遺症が残ったりする頻度は約1.9万人に1人(0.0052%)と報告されています。また、非常にまれですが、副作用で死亡することもあり、頻度は約83万人に1人(0.00012%)と報告されています。副作用は検査中や検査直後に起こることが多いですが、1時間から数日後に副作用(発熱、発疹、吐き気など)が起きることもあります。

副作用の危険性は、以前にガドリニウム系造影剤で副作用のあった方、気管支喘息の方、アレルギー体質の方で高くなります。また、腎臓が悪い方では、腎性全身性線維症という副作用を起こしたり、腎臓の働きを悪化させるおそれがあります。

合併症

針を刺すことによって、刺した場所の痛みやしびれが検査後も持続することがあります。頻度は軽症を含めると6,000人に1人(0.017%)とされています。

また、まれに造影剤が血管外にもれ、腫れや痛みを起こすことがあります。

MRI造影剤を使用しない場合の不利益

病変を発見しにくくなることや、病変の状態がわかりにくくなる場合があります。

もし副作用や合併症が起きても適切な処置を行えるような準備をして、検査を行っています。造影剤について不明な点がある方、造影剤を使用したくない方は、ご遠慮なく申し出てください。

なお、副作用や合併症が起きた場合の診療は、通常の保険診療となりますので御承知おきください。

〈MRI造影剤使用の同意書〉

私は患者様に上記事項について説明しました。 年 月 日

医療機関名

担当医氏名

私は、MRI造影剤を用いた検査の目的や方法、危険性について説明を受けて理解した上で、MRI造影剤を用いた検査を受けることに同意します。

年 月 日

患者氏名

代理人氏名

(続柄)